

メープルレター（103）

立春は名ばかりの寒さ

相変わらず寒い、雪の多い日が続いております。立春はどこかなあー？春はまだまだ遠そうです。それでも、夜明けは少し早くなり、夕暮れも少し遅くなりました。冬眠から抜けだしつつあるのかもしれませんが。晴れている日は寒くても、天国です。

分厚いコートを着て歩く街並に、この頃日本食の小さな変化が感じられます。寿司ブームが過ぎさり、なんとおにぎりブーム。ファーストフードのお寿司は、食材の値上がりで、値段があがり、韓国料理ブームも追い打ちをかけ、寂しいほど顧客の姿が減りました。その中で、ダントツに若者の人気をさらっているのがあの三角のおにぎりです。値段も手ごろ、可愛いし、バラエティーに富んだ味。テイクアウトも簡単ですし、2-3個ランチにという人も少なくないようです。通りがかりに見かける大の男がスマホを片手におにぎりを食べる姿は可愛く見えます。中国系や韓国系のスーパーでもおにぎりを見かけるようになりました。あの日本のコンビニ感覚です。ハンバーガーレベルになりそうです。あれもこれも食べらる日本食は、やはり人気なようです。

マダム田中は、乳がん1年目の検診をどうにか無事にクリアしてほっとしております。マイナス25度の中の連日のアポでした。1年前に手術をした先生は、

「マモグラフィーは完璧です。とても良好です。薬はどうですか、問題ありませんか。」

検診しながら、

「どれどれ、どこにも異常はみられませんね。」

上機嫌にニコニコしながら、異常なしとの診断がでました。それでも、本当は僕はもっと切りたい、そんな意欲が伺われないでもないのですが。。

「問題だらけでした。膝のリウマチがでるし、筋肉も痛いし、高齢と薬の副作用が出ていたようでした。途中で2か月ほどやめました。看護婦さんに、それはだめよ、貴女。再発を防ぐには大事な薬だから、痛みが収まったら、また飲んで。それでだめなら、先生に相談するから、と言われ、鎮痛剤を飲みながら、耐えています。」

「そうですか。それで、大丈夫ですか？」

「何とか耐えています。」

「そうですか、そのまま続けてみましょう。では、また半年後にお会いしましょう。」

あっさりそういわれて、アポは5分で終わりました。翌日の放射線癌科の先生は、何ともエレガントな装いで、

「どうですか。お元気ですか。とても良い結果ですね。」

長い白髪をバックになでつけて決め、紫のセーターを着て、何ともリラックス。

「癌科の外科医の先生にもお話しましたが、膝が痛くて必死で耐えています。唯一の楽しみは、先生のような、素敵な医者に出会うことくらいです。」

笑いこける、放射線癌科の先生。検診にも全然身が入っていません。

「耐えられそうですか。痛いよね、この薬。」

そう、どのみち、痛いのは患者だけです。

「先生、この時期ってバカンスに出かける頃ではありませんでしたか？」

「そうなんです。明後日からマルセイユ。アパートを買ったんです。」

これで検診は終わったしまったかのように、話は一直線にバカンスです。一番最初のアポの時には30分を日本の旅の話に費やした先生ですが、今回は、マルセイユの話でした。

「僕ね、買ってすぐに、ミモザを植えたんです。一階だから少し庭があるんです。南仏は今の時期は、もうミモザで一杯ですから。人間的で文化的な暮らしがマルセイユならできそうだ。」

マダム田中の病気はミモザほど気を引かないようでした。というわけで今回は、ミモザの話が20分。

「では、また来年お会いしましょう。僕とのアポは1年に一度ですから。」

そうなんだ、放射線癌科の検診は年に一度なんだ。この先生は我が家から5-6分の同じオールドモンリオールの一角に住んでいるので、パン屋とか喫茶店とか、どこかで会いそうな気がします。この先生がトップに立つ、乳がんのリサーチグループの研究材料になることを承諾していますので、この後は担当のリサーチャーとのアポが続きました。

こうした検診のアポこなした後は友人のお葬式に行くことになりました。生前を偲ぶお別れ会といった方が良いのかもしれませんが。お花に囲まれ、暖かいお別れ会でした。昨年は、日本の大事な友人の訃報や友人の御主人の訃報が続き、辛い年末でしたが、今回はこちらのいけばなの孫弟子のお葬式でした。美しく笑顔を絶やしたことの無い人でした。2週に一度のいけばなのお稽古だけが、唯一の自分の時間だったようです。昨年8月に100歳になった母親の面倒を長くみていたのですが、年末に倒れ、そのまま入院し、20日後に息を引き取りました。全身に癌が転移し、手の施しようもなかったようです。彼女の100歳の母親は娘と1時間違いで息を引き取りました。孫弟子の母親は肺炎をおこし、同じ病院の隣の部屋に緊急入院していましたが、娘は、母親に会うことを拒否していました。こんな骸骨のようにやせ衰えた姿を母には見せられない、ショックを与えたくないから、と息子に伝えたようです。隣同士の部屋にしながら、娘は母親に会うことはなく、母親は娘に会うことはなく、息を引き取りました。

さてさて、こちらは、そろそろ冬の1週間の中休みにはいります。寒い冬を逃れ、大半が暖かい所に旅立ちます。義理の長男一家はパドルの試合見学も兼ねてマイアミへ家族で小旅行。長男の息子は母親とローマへ親子の旅。ローマの旅は孫息子の夢だったようです。義理の次男は従兄や子供達と近くの山でスキー。踵の骨折療養中の嫁は、このころはリハビリで忙しくなることでしょう。娘は、義両親の招待で、デイズニーの豪華客船でカリブのクルージングです。お義母さんの長年の念願で孫娘をつれてデイズニーワールドの船旅に出ることになっています。お義母さんは、孫娘とお揃いのデイズニーTシャツも買い込み、ルンルンで準備しているようです。何だかとてもかわいい感じですね。デイズニーの持ち島もあるようで、そこに行ったり、他の島を訪ねたりの1週間の旅です。船の中にはデイズニーワールドのイベントが山のように組まれているようです。ミッキーマウスや白雪姫とべったりの1週間は孫娘には夢のような旅となるのではないのでしょうか。その間、マダム田中は娘の猫シッターとなるのですが。。。

明日のバレンタインデーは、嫁とワインのテスティングに行く義理の長男の4歳のモンスター娘のシッターがあります。そうそう、忘れていました。ドリトル先生のシッターもありました。家族が丸く収まるには、マダム田中は、鎮痛剤を更に飲み続け、痛い膝も腰も忘れて働くことになりそうです。